

ATTACHMENT ・ 添付資料

テディ（Teddy）の金糸施術とX線写真

マル動物病院での金糸（金埋線）施術の様子と2023年10月のX線写真

患者	Teddy ・ 犬（ヨークシャー・テリア） ・ 去勢オス ・ 2023年当時13歳
マル動物病院への来院	2023年8月30日
施術	金糸（金埋線）の挿入と生命エネルギー（Life Energy）ケア
関連する検査記録	「テディ 腎臓疾患の検査・診療記録」 — 米国 ANTECH ・ NEODIN ・ 建国大学 ・ ソウル大学動物病院の検査票

01 症例の概要

治療経過

米国ニューヨークに住むTeddy（ヨークシャー・テリア、13歳、オス）は、2023年8月3日、米国のかかりつけ動物病院で慢性腎不全（BUN 107、Creatinine

2.4）により不治との診断を受けました。ニューヨークの大型動物病院7か所でも諦めるようにとの所見を受けた後、済州島に住む弟妹から自己免疫疾患専門のソウルのマル動物病院を紹介され、8月29日に飼い主とともに仁川空港から入国しました。

約5~6か月の治療期間中に、腎臓と肝硬変（腹水）が約50~60%回復しました。複数の治療方法のうち、金糸に生命エネルギー（Life

Energy）を適用して肝臓・腎臓部位に設置する施術を行い、回復の検査は建国大学・ソウル大学の獣医科大学付属動物病院で受けました。

マル動物病院の説明

・ Teddyは2023年8月3日の米国での検査でBUN 107、Creatinine

2.4の結果が出た後、韓国に来ました。マル動物病院は肝臓・腎臓部位に金糸（金埋線）を挿入し、生命エネルギーケアを併せて行いました。その後の検査は建国大学・ソウル大学動物病院で受けました。

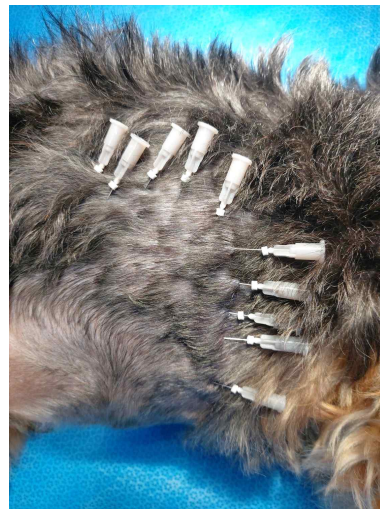
・ 同じ期間に、大学動物病院による内服薬・皮下補液の処方も並行して行われました。

02 金糸挿入の様子



金糸入り使い捨て管針 ①・背部

背部の皮膚に、金糸の入った使い捨て管針を刺した様子



金糸入り使い捨て管針 ②・背部～脇腹

背中から脇腹にかけて使い捨て管針を刺した様子

03 X線写真（2023年10月）



マル動物病院のPACS画面に表示した腹部側面のX線画像を、携帯電話で撮影した写真です。画面右上に「マル動物病院」と「2023-10-1…」の日付が見えます。

- ・ 赤い円は金糸を埋め込んだ箇所を示しています。
- ・ X線の読影所見はこの資料にありません。